

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201143		
法人名	株式会社ジョブステート		
事業所名	グループホーム陽だまり		
所在地	(〒 651-2213)	兵庫県神戸市西区押部谷町福住628-192	電話 078-994-9297
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年10月14日

【情報提供票より】〔平成21年9月21日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計6人)		
職員数	13人	(常勤4人) (非常勤9人)	/ 常勤換算6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,500円	その他の経費(月額)	24,500円
敷金の有・無	無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	
食 材 料 費	朝食	150円	昼食 400円
	夕食	300円	おやつ 50円
	または、1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (平成21年9月21日 現在)

利用者人数	計6名 … (男性0名) (女性6名)		
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年 齢	平均85.2歳 … (最低68歳) (最高93歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	角田接骨院 ありもと歯科医院 黒田東自由が丘診療所		
---------	---------------------------	--	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

神戸電鉄「押部谷駅」より徒歩5分の住宅街にあるホーム。民家を改修した建物は街並みと調和している。隣地には「通所介護事業所」「高齢者向け賃貸住宅」を併設しており、利用者同士の交流も多い。菜園の他、庭には樹木や四季折々の花が植えられ、犬や鶏の飼育もしている。利用者は加齢による身体機能低下もあり、出来なくなってきた事も多くあるが、今、個々に出来ることを協働(食事の後片付け・動物の世話・果物や野菜の収穫等)しながら、穏やかにゆったりとした生活を楽しんでいる。移転をされた隣接のキリスト教会の建物を、牧師さまの厚意で借り受け、地域資源としての活用のためにホームが管理をしている。「地域に住む皆さんの拠り所(交流場所)」として還元・機能できるように努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①利用者や協働してお菓子を手作りし、地域の方とのお茶会を実施した。②運営推進会議の議事内容を家族全員に送付。③「陽だまり通信」を発行し利用者の様子や行事報告している。④介護計画は家族宅を訪問し説明している。⑤内部研修を年6回実施。⑥介護計画は、「利用者の声」を大切にし、職員全員の意見が反映できるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	常勤職員全員で取り組み管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回偶数月の第4土曜日に固定し、参加者が予定できるようにしている。地域代表、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員、利用者、利用者家族、ホーム職員が参加のもと旧教会にて開催している。会議では、ホームの状況報告やケアのあり方について意見を頂いている。他ホーム職員の参加により、同業者との交流に繋がった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	利用者の暮らしぶりや写真入りの行事報告を掲載した「陽だまり通信」を季節毎に年4回発行し家族に送付している。家族に安心してもらえるように利用者が自筆で家族に手紙を書くことができるように支援している。介護計画の見直しの時期には、家族宅を訪問し意見や要望を聴く機会としている。頂いた意見は運営に反映できるように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会に加入し、地域清掃や地域行事に利用者とともに積極的に参加し地域交流に努めている。地域貢献の活動として、高齢の一人暮らしや夫婦だけで暮らされている方にお弁当(希望により)を届け、見守りをしている。また、旧教会は、老人会(シニア会)の囲碁クラブや生活会の料理教室などに利用してもらっている。

2. 第三者評価結果書

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で安心して暮らせることを支えるサービスとして「利用者の安心と尊厳のある生活を守ると共に介護従事者との密接な関係を築き、家庭的雰囲気を育む」を事業所理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、地域に開かれたホームを目指し、毎月、コーラス・サックス・大正琴・東洋医学の体操など多くの地域のボランティアの受け入れ、利用者とともに積極的に地域に出掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域清掃や地域行事に参加している。ホームに地域の方を招待してお茶会を催したり、地元の三木高校の体験学習を受け入れるなど双方向の地域交流ができるように日々努めている。	○	更なる地域交流の活性を目指し、旧教会を活用して、地域の方向けに「認知症予防」や「生活習慣病予防」などの学習会や健康料理教室などの開催を企画されたらどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の取り組みを期待する項目については、前向きに取り組imi改善している。自己評価は、ケアの振り返りの機会として捉え、管理者と常勤職員全員で取り組んでいる。また評価結果は、家族全員に送付している。	○	評価結果は、運営推進会議において、出席メンバーにも報告をされ、今後のホームづくりのための、ご協力、ご助言を頂くように願ってもらいたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加して頂き、地域情報やケアについての情報交換をしている。家族全員に議事録を送付し、ホームの状況やボランティアの受入等の報告に活用している。訪問時にも閲覧できるように掲示している。議事録の書式変更を検討している。	○	旧教会の有効活用について、地域の方の集いの場としてのネーミングや地域の方向けの交流会や学習会の開催など相談されたらどうか。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年4回、西区役所の担当職員を交えてのグループホーム連絡協議会に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事報告と利用者の暮らしぶりを掲載した「陽だまり通信」を年4回発行し、全家族に送付している。訪問や電話にて、家族とはこまめに報告・相談を行っている。	○	「陽だまり通信」を職員全員で取り組めるようにされたらどうか。たとえば、利用者一人ひとりのおたより担当を決めて、個別の写真や利用者から家族へ自筆「一言メッセージ」など、家族も安心され、職員のスキルアップの機会にもなるので、工夫されたらどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直しの時期に家族宅を訪問して介護計画の説明を行うとともに、意見や要望を聴く機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はほとんどなく、利用者との馴染みの関係づくりができています。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月毎に、内部研修(身体拘束、高齢者虐待など権利擁護について)を実施し、研修レポート作成をすることで職員がスキルアップできるようにしている。外部研修としては、認知症実践者研修や職員の意見を聴きながら希望する研修(インフエンザ・音楽療法など)が受講できる機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホーム連絡協議会で、他のグループホームと交流する機会を持ち、意見を参考に運営に役立てている。介護ノートは、連絡協議会で意見を頂き書式変更をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に相談したうえで、ホームにお茶を飲みに来て頂いたり、併設する通所介護事業所を利用し頂くなど、本人が無理なく入居を決定できるように本人や家族の生活状況や気持ちに沿った支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩として学ばせて頂き生活を共にしているという気持ちで接することで利用者信頼関係を築いている。家事を協働し、支え合う関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数の利点を活かし、利用者一人ひとりの言葉や様子から、思いの把握ができるように努めている。声かけの仕方においても職員間で話し合い、利用者の気持ちに沿った対応をしている。利用者同士の間にも配慮している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の声を大切に家族と相談しながら職員全員でモニタリングを行い、ケアマネージャーが中心となって利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行うとともに、状態に変化がある場合は、その都度、見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	○	よりいっそう利用者の状態変化等を全職員が共有するために連絡ノートの工夫をされたらどうか。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「有料老人ホーム」「通所介護事業所」「高齢者向け賃貸住宅」を併設し、相互交流を通じて生活の質の向上ができるように支援している。通所介護事業所で訪問理美容サービスが利用できる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に詳しい主治医の定期的な往診がある。利用者の状態に応じて、受診の支援を行うとともに緊急時にも対応できる医療機関との連携体制づくりができています。歯科とも連携しており、随時の往診対応があります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」を定め、家族等に同意書を頂き対応している。医師との連携のもと出来る限り、利用者と家族の希望に沿った最後を迎えられるようにスタッフのスキルアップにも努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いをしないように徹底している。排泄についてのマニュアルを新たに作成している。職員の守秘義務については、全職員が誓約書を交わし退職後においても守秘義務が継続することとしている。個人の記録等は鍵のかかる書庫へ保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のライフスタイルを尊重し「待つ介護」を実践している。利用者一人ひとりのペースを大切にゆったりと一日過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
		○食事を楽しむことのできる支援	利用者一人ひとりのできる力が継続できるように、野菜や鶏卵の収穫、たまねぎの皮むき、買物、後片付け等を協働している。職員が食器を洗い利用者が食器拭きをするなど自然に役割分担ができています。献立は、1週間ごとに作成し、現在「おいしいスープ」を職員が試作している。		
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
		○入浴を楽しむことができる支援	入浴は週2回(午後)を基本としているが、希望に沿って対応している。シャワー浴・足浴・清拭なども取り入れ、隣接する通所介護事業所の大浴場への入浴希望があれば対応できるようにしている。		
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物たたみやモップかけ、刺繍など生活歴を活かして、好きなことや得意なことができるように支援することで自信をつけてもらい、張り合いのある生活が送れるように支援している。また、鶏や犬の世話、菜園や花壇の水やりなどが利用者の生活の楽しみになっている。		
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
		○日常的な外出支援	入居前の習慣や暮らし方が継続できるように、喫茶店の利用やキリスト教会への訪問(月1回の礼拝のため)などの外出支援や季節ごとの外出(花見・いちご狩り・ぶどう狩り・コスモス見学・初詣)、外食支援などを行っている。		
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践	夜間を除いて施錠はしていない。職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、常に利用者の様子を把握している。玄関出入り口は、カウベルで人の出入りに気付くように工夫もしている。		
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練の他、スタッフ会議で避難経路の確認をしている。夜間の災害時は、近隣に住む職員3名が応援体制をとることになっている。2階に居室が4室あるので、夜間の避難対応が課題となっている。地域消防団や自治会への協力要請を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとの介護ノートに日々の水分・食事摂取量・服薬状況の他、入浴の有無やバイタル、午前・午後・夜間の様子が記入されたおり、その日の状態が解りやすい書式になっており、状態に応じた食事・水分摂取確保の支援ができるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花や樹木が植えられ、ベンチが設置されている。居室や玄関には、季節を感じてもらえるように壁面には、季節ごとの作品を掲示している。アットホームな雰囲気、誰もが親しみやすい工夫を心掛けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや生活習慣を大切にするために、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたベッドや家具、馴染みの食器などを持ち込んでもらい、生活環境が大きくかわらないように配慮して、居心地よく暮らせるように支援している。		

※  は、重点項目。